

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570102436
法人名	医療法人社団こおり産婦人科・内科
事業所名	グループホーム 101(ひやくいち)
所在地	宮崎市清水1丁目169 (電話)0985-28-8114
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成20年6月19日

【情報提供票より】(20年 4月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 4 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.37

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,800 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	473 円
	夕食	473 円	おやつ	込み 円
	または1日当たり	1,261 円		

(4)利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 89.8歳	最低	83歳	最高	87歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	こおり産婦人科・内科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市内中心地の閑静な場所に、L字型の平屋建てである。玄関から庭へと続くスロープには手すりが設置され、四季折々の庭の景観を楽しむことができる。食事は、利用者の経験を活かして一緒に調理をしたり、メニューへのリクエストや味付けなど細かな配慮がみられた。利用者の要望に添った外出支援も行っている。月1回、同法人の検診や夜間・緊急時の対応が整っている。職員が利用者一人ひとりの持つ力を発揮しながら、地域で安心した暮らしが継続できるよう細かい対応の支援を目指し取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者が安心して馴染みながら、サービスの利用開始ができ、一人ひとりの能力を活かした役割分担、楽しみごとや気晴らしのある支援にむけ改善に取り組んでいる。また同業者との交流を通じて質の向上に活かすなど改善されている。災害対策は地域の人の参加を取り入れた実施に向け、計画を準備中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価をサービスの質の向上の機会と位置づけ、指摘のあった改善点について管理者・職員で話し合い、改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ開催されていない。開催に向け準備中である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が、率直に苦情、不安の意見を述べるように配慮している。苦情処理記録票に記載し、課題の検討や解決に向けた取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人々の訪問やボランティアの協力を得ている。今後、さらに、地域との連携を深めて行きたいという意欲を持っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初のままで見直しがなされていない。	○	これまでの理念を見直し、地域密着型サービスとしての地域生活の継続支援や地域の関係性を考慮した理念をつくり上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	実践に向けた話し合いや取り組みが少ない。	○	日々の実践の中で、何を大切に利用者に向き合うか、話し合いや確認をしながら、理念の共有や実践に取り組んでほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事などに来訪者があったり、近所の人から利用者へお土産が届き、お礼に手作りのものを差し上げたりして地元の人々との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価、外部評価の意義を理解し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催に向け準備中であるが、まだ開催できていない。	○	是非、早急実施してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの理解・支援をってもらう働きかけには取り組んでいない。	○	市担当者に運営推進会議参加の呼びかけや、ホームの課題解決に向けて関係づくりの工夫をしてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪ねてきた機会をとらえて、健康状態や金銭管理状況を報告し、情報の収集や、意見を聞き運営に反映させている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、率直に苦情、意見を求めたりしている。苦情処理記録を備え、課題を検討し、解決に向け取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職がある場合は、引継ぎにおいてダメージを少なくするように配慮している。	○	引継ぎ期間を十分取り、業務内容やこれまでの経緯など業務の背景についても引継ぎを行ってほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員各自に応じた段階的・計画的な研修の機会の確保について、運営面で工夫されていない。	○	運営者は、職員育成の重要性を理解し、職員全員が研修の機会を確保できるよう方策を工夫してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族等と十分に話し合いながら、本人と家族に合った個別の利用開始の調整を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に調理やあと片付けをしたり、ともに支えあう関係をつくっている。また、一緒に過ごす中で利用者の個性や日々の体調の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報をできるだけ引き出す取り組みをしている。新聞の記事を話題にしたり、日常生活から本人の意向をくみ取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろのかかわりの中で、本人や家族に、思いや意見を聞き、個別援助計画に反映するようにしている。アセスメントを含め職員全員で話し合いやモニタリングを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族、関係者と話し合い、必要に応じて3か月に1回介護計画の見直しを行っている。安定しているような利用者の場合も、毎月見直す取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
行って					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や特別な外出・外泊の支援など柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は原則として家族が付き添いかかりつけ医に受診し、やむをえない場合は職員が通院支援をしている。週1回歯科の往診、月1回の検診が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は、家族や医療機関と連携をとり、終末期の利用者への対応や方針等について共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人を尊重した呼び方をしている。複数の同姓の利用者には本人の希望を聞いて、家族とも相談した呼び方をしている。職員は言葉かけや対応に注意して、プライバシー保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれのペースを尊重し、寄り添うように柔軟な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを取り入れ、利用者の好みのメニューを工夫している。買い物、調理、食事の後片付けなど利用者の力を活かしながら行っているが、食事は一緒に摂っていない。	○	利用者と職員が同じ食卓を囲み同じものを食べる工夫をしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中に、週4回の入浴の支援をしている。午後の入浴も検討している。		利用者のこれまでの生活習慣や希望を引き出しながら、一人ひとりに応じた入浴の支援を工夫してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理での野菜刻みや味付け、後片付け、洗濯物たたみなど、それぞれ役割が持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ利用者の希望に合わせた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけていないが、門扉は常時鍵をしている。	○	地域の人や家族が外から訪問しやすい雰囲気作りの意味からも、鍵を掛けない工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難マニュアル、緊急連絡網等の整備や、職員で緊急時の対応について把握してない。	○	緊急時の対応について、整備し、避難訓練等実施してほしい。また、地域の人たちの協力が得られるよう働きかけをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量や水分確保について把握し、個別に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、広い空間に円卓2脚とソファがあり、畳のコーナーでは利用者が座って洗濯物をたたんだり、居心地よく過ごせる工夫をしている。リビングの窓から、玄関に続く庭を眺め、のんびり、安心して過ごせる雰囲気が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた生活用品が持ち込まれている。		